



Tackle Guide
タックルはライトヒラメ用がベストだが、7:3調子のゲームロッドや通常のヒラメ竿でも問題ない。ハリス長は潮が速いときは長め、潮が緩いときは短め。捨糸の長さも根があるときは長め、砂地なら短めというのが使い分けの目安。

「メートルです」と開始の合図が出た。しかし底荒れがまだ取まっていないうらしく、2流してノーヒットだったので船長は早めに移動を決める。10分ほど沖に向かって到着したポイントは水深12~14メートル。海底は砂地にツブ根が点在する感じで、根掛かりの心配は少ないとのこと。さっそく右舷トモの高橋さんが80グラム級を釣り上げると、その隣の高橋女史にも魚



▲銚子の夏ヒラメはこれからが最盛期

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

梅雨明け前だということにまるで盛夏のような連日の真夏日。今回の特選レポートは、そんな夏の日差しが似合う3ターゲットを取り上げた。



▲取材日は園田さんが良型を連発した

思いのほか小さかった
そのとき、反対側の左舷ミヨシから悲鳴が聞こえたので駆け付けると、「デカかったのに」と小林さんがガックリと肩を落としていた。聞くとタモ入れ時にヒラメが暴れてスレ掛かりしていたトリプルフックのハリが折れたとのこと。その隣の御年86歳になる丸山さんも「私も着底直後にガツンと突然きて丸ごとイワシを持っていかれました」とガツカリした表情をしていた。その後はフグが寄ってきてハリスを切られたり、上げてみるとエサがそっくりなくなったりするパターンも増え、高橋さんが1枚追釣しただけでポイント移動となった。ここでは右舷ミヨシの園田

「アタつていますよ」と私が声をかけ、再び園田さんとヒラメとのバトルが開始された。明らかに先ほど釣ったヒラメより激しく抵抗してくることから4~5キロクラスを予想していたのだが、釣れ上がったヒラメのサイズは意外にも1.8キロだった。「スレ掛かりだったから暴れたんだな」と言う園田さんにとっては期待外れだったとはいえ、うれしい一枚だ。その後、高橋さんが3枚目となるヒラメを釣り上げると私にも魚信到来。引き込んだ竿にヒラメを乗せるようにゆっくりと大きな合わせを入れるとハリ掛かりに成功、巻き上げを開始。取り込んだのはうれし恥ずかしの600グラム級であった。その後、高橋さんが本日最大となる2.8キロ、高橋さんが4枚目のヒラメを釣ったのだが、左舷は音沙汰なし。

●船宿information
銚子外川港
長栄丸
☎0479-22-0567
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=ヒラメ乗合一人1万3000円
▶備考=予約乗合。4時集合、4時半出船

木村 真喜雄船長

夏ヒラメのシーズン到来 浅場ならではの釣趣を満喫

◎銚子外川港発↓外川沖
本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

待ちわびていたヒラメの解禁が他エリアに先駆けて飯岡(銚子エリア)でスタートした。「夏ヒラメ」と呼ばれるこの時期は、釣り場の水深が浅くライトタックルでも対応できることに加え、海も穏やかでヒラメの活性も比較的高いことからヒラメ釣り入門にもってこい。もちろん、開幕直後は居着きの大型が釣れる絶好のチャンスでもある。そこで6月24日に本誌の高橋恵子女史と銚子外川港の長栄丸へと向かった。

港に到着すると木村船長がエサの積み込み作業中。手の空いたところであいさつとともに近況を伺うと、「今シーズンには5キロの大型も釣れたけど、今のところ1キロ前後の数釣りとなっていて」とのこと。船長の言葉に一抹の不安を覚えたが、さらに不安を増幅させたのが遠目に見える工場の煙突から出る煙が垂直に立ち登っていたこと。風がないのである。このエリアのヒラメ釣りはスパンカーを広げずに船体を風に当てて広範囲をリサーチする「横流し」をメインとしているが、肝心の風がなければポイントを広く探れない。8名が両舷に分かれて準備を済ませた4時半に出船、念

知得! Tips and Tricks
孫バリの形状を考える

ヒラメ仕掛けの孫バリはトリプルフックとシングルフックの2種類ある。トリプルフックはハリ掛かりに優れるが、根掛かりしやすかったりハリの軸が細いので折れるリスクがある。シングルフックはイワシへの負荷が少なく軸が太いので折れる心配は少ないが、合わせの際にスッポ抜けのリスクがある。その特徴を知った上で平場で根掛かりの少ないエリアではトリプルフック、根やカジメの多いポイントではシングルフックと使い分けののもいいだろう。

▲最近孫バリにトリプルフックを使う人が多いもののシングルフックにこだわる人もいる